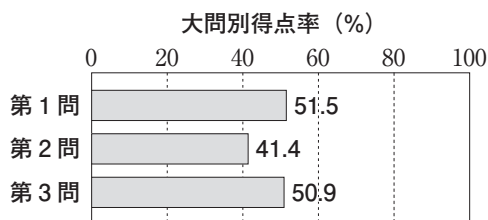
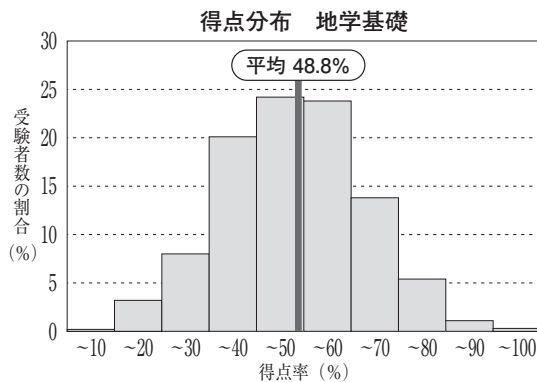


地学基礎

論理の展開を把握しよう。

I. 全体講評

今回の得点分布は、次のようになっている。平均点は24.4点であった。一通りの学習を終えている受験者も多かったと思われるが、十分に演習を積み、知識を定着できている受験者はまだ少なかったようである。「地学基礎」は「地学」に比べて学習項目が少なく、教科書をしっかりと理解することで十分に満点を狙える科目である。一つ一つの知識を確実に身につけて、着実に得点を伸ばしていくようにしましょう。



II. 大問別分析

第1問 地球

火山と地震・岩石に関する知識を整理しよう。

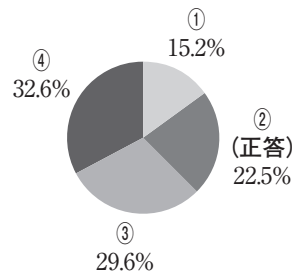
Aでは日本列島付近のプレート境界の位置と火山・地震についての基礎的理解を確認した。プレートの運動と地震やマグマの発生との関係も確認しておこう。

Bでは地質構造と示準化石についての理解を確認した。代表的な示準化石は、時代と名前を覚えるだけでなく、実物を観察する機会をもってもらいたい。

Cでは堆積岩についての総合的理解を確認した。それぞれの堆積岩の特徴についてまとめておこう。

Dでは岩石の組織についての総合的理解を確認した。火成岩と変成岩の特徴についてもまとめておこう。なお、堆積岩、火成岩、変成岩も、ぜひ実物を手にとって観察する機会をもってもらいたい。

問3 8 各選択肢の選択率



※注) 無回答・マークミスは割愛したため、
選択率の合計は100%にならないことがある。
以下同様。

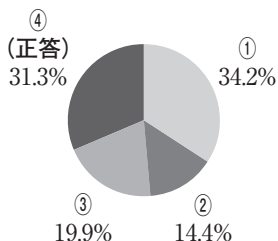
第2問 大気と海洋の大循環

仕組みを理解しよう

大気と海洋の大循環についての総合的理解を確認した。大気と海洋は密接に関係している。教科書の図を参照して、水平方向の動きだけでなく鉛直方向の動きの仕組みも理解しておこう。なお、大気や海洋の運動と熱輸送に関する問題は、2018年のセン

ター試験でも出題されている。

問 3 **12** 各選択肢の選択率

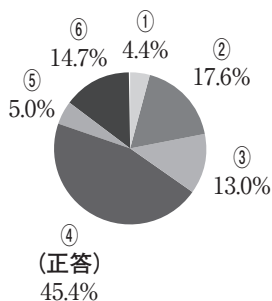


第 3 問 銀河系と太陽系

計算問題にも挑戦しよう。

銀河系の構造, 太陽系惑星の特徴, 銀河についての基礎的理解を確認した。地学基礎でも計算問題が出題されるが, 決して複雑なものではない。落ち着いて取り組もう。また, 解説の表を参考に, 地球型惑星と木星型惑星の特徴を対比させながら整理しておこう。

問 2 **13** 各選択肢の選択率



Ⅲ. 学習アドバイス

◆センター試験の地学基礎について。

センター試験の「地学基礎」は新しい科目のため過去問が少なく, 学習を進めるにあたって不安もあるだろう。しかし, センター試験の出題範囲は教科書に限られている。センター試験で高得点を得るためには, 「教科書」→「問題演習」→「教科書」という流れの学習方法を反復し, 教科書を徹底理解することが大切である。

◆これからの学習について。

学習にあたって最も大事なことは, 地学基礎は暗記科目ではないということである。

「地学基礎」の学習ではまず教科書を通読しよう。教科書を通読したら, 今度はできるだけ丁寧に教科書を読んでいこう。大事なことは, 各分野それぞれの論理の展開を把握することである。どのような観測や観察, 実験がされ, そこからどのような考察がされているのかを理解しよう。そのために, 図・表・グラフを正確に読む力をつけていこう。図やグラフを正確に読むためには, それを自分でノートに描いてみるのが大切である。描くことで, 見るだけではわからなかったポイントが見えてくるはずだ。また, 教科書を読むときは用語を暗記しようとするのではなく, その用語がどのように使われているのか, その論理の道筋を理解するようにしよう。

◆模試を活用しよう。

「地学基礎」にはセンター試験の過去問がまだ少なく, 演習量が不足しがちである。そのため, 模試を演習の一環として学習を進めていくことが重要となる。2 か月ごとに実施される東進のセンター試験本番レベル模試は, 全国統一高校生テストも含め年 6 回で「地学基礎」の出題範囲をすべてカバーするため, 学習の進み方と学習の不足点を判定できるとてもよい機会である。今後も模試の受験を継続し, 着実に得点を伸ばしていこう。